

文久三年十一月四日より文久三年十一月七日まで

P8311054 right

明四日五半時 御用召御書□紙到来、御齋御請家来さし出し黄<sub>レ</sub>窪牛込寺山に吹聴申遣<sub>ス</sub>す

四日未 晴

須崎長尾伊藤に藤山大塚並、長蔵へ本日の吹聴申遣す、富沢より紅梅糕賀贈せらる、出 殿

外国奉行

被 仰付惣皆勤退出、程なく御展<sub>シ</sub>□□より新番所前溜おゐて、箱館表へ被遣候に付

用意可致旨、備前守殿被仰渡候段、達し来る、□之助宿願有し来る、酒肴を勧む、甘利は烟盆に

乾蛸脚に新芽葛粉等贈らせし旨、内山笠原桑野木村小川(達)野宮伊藤(庄)京極大越白石山本(次郎)

三橋

榊原木城山田大野田畑野村へ榮転の吹聴申遣す、黄<sub>レ</sub>窪より五郎両娘、須崎伊藤両伯母【判読不可】

寺山

牛姑長次郎野宮藤山山田長蔵等来る、賀杯を勧め且夫々へ賀銀を投ず、伊藤より鯉券長蔵より

同断山田より鯉節一【文字判読不可】一筥賀贈らせらる、右両娘従婢、両伯母、□□牛姑は

泊宿

五日申 晴

P8311054 left

貫之助より浮織一反賀贈し来る、野村(周<sub>ニ</sub>)賀に來り面す、今日より押<sub>シ</sub>を抱入る、屋代へ吹聴状

遣す、出

殿京都より被、仰【文字判読不可】御軍艦にて、御上洛被進候段、於芙蓉間老役壱人と被仰渡、

新

部屋にて備前守殿御直申文雛形御渡有し、牛籠より鶏卵一筥賀贈せらる、せき女尚又一旦帰宿(一

望<sub>シ</sub>道玄来る)

六日酉 晴

細谷より鶏卵一折賀贈し来る、田中(廉賀)に來り、欧行志願の義申述る、出 殿、申文□添、

佐山

八十次郎を以、差出す、大塚小君、孫女共は柑<sub>ニ</sub>一籠外に鮑細工器、白粉添持来る、賀銀其外

小品

遣せし旨、□鶏卵を賀贈し素麵(麩)持來賀を遣せし旨

七日戌 晴午下薄陰

御上京御祝義惣出仕、惣廻勤有し調桁<sub>ニ</sub>に付、宅調此度箱館御用の儀に付艸案を起す、柳原(陳)

賀に來り鶏卵一筥(は<sub>ニ</sub>)贈らる、清水(鎌)、田畑同断来る、福地(源)、和田(重)同断來り面す

□□より使して鯉節

【文字判読不可】は虫食等で文字自体がない、見えないなどです

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。)

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。